

時事新報

日清戦争の爲めに收め得たる最大の結果は臺灣の割取にも非ず二億兩の償金にも非ずして日本國民が自から其眞價を覺りたる自覺心にゐそあれば戦後の經營として計畫、企策自から少なからずと雖も社會の奉先者として國民を誘導せんとする者は何は兎もわれ先づ此自覺心を利用して之を日安に凡百の施設を割り出さるゝ可らず自覺心とは從來東洋の偏隅に蟄居して文明の潮流に後れ到底世界の檜舞臺に角逐する能はずと觀念絶望したる者が一旦の戰勝によりて忽ち自家の地位の輕からざるを悟り東洋の孤島必ずしも孤ならず亦以て世界の中心たらんとするを發見し斯かる上は決して自暴自棄す可らずと茲に自重自信の念を生じたるふどにして若しも善く此奮發心を鼓舞訓練して進まんには眞實日本を以て世界の中必たる實を具ふる上は我國より來東と云ひ西と云ひ宿名むるに非ずヘブルの昔人が其地より右を西と左を東としなるに過ぎざれば苟も日本にして世界の中必たる實を具ふる上は我國より本國風の實質は此中心主義を極度まで擴張するものと決して以て實事外義の事は固より云ふまでもなく本國風の實質の如きも區々の情實。目前の利害に對する事は無論より開り出すべるのみ例へば東洋問題の實質の如きも東洋一孤島の港灣としては日本二十世紀の實質を察するに足らば或は十分なるやう知る船輪が直に東洋側に入るの日ともならば最多の費用を費する以上古新かる貿易に妨しき小計費にては到底、是ガラグワ運河開通して太西洋の巨輪を踏破したる物の用を免はずして少しく吃水の深き船舶は空しく灣外に彷徨するが如き珍事も出来ず可きが故に是非とも即ち北歐の貿物は一聲海水の北海を経て我國に集注し貿物の用を免はずして少しく吃水の深き船舶は空しく灣外に彷徨するが如き珍事も出来ず可きが故に是非とも即ち北歐の大港を見るに蘭伯里鐵道築成して北歐の生氣運動し蘭伯の鐵道築成して南方の地力興揚せられ小人島の機會に安てるを見て大に不平に堪へるものも此一事に關して云々せんと欲するに非ず今之官民共に頓々人工を費して成功したる折角の港灣も實際の用を免はずして少しく吃水の深き船舶は空しく灣外に彷徨するが如き珍事も出来ず可きが故に是非とも即ち北歐の大港を見るに蘭伯里鐵道築成して北歐の生氣運動し蘭伯の鐵道築成して南方の地力興揚せられカラグワの鐵道築成して歐米の商勢一統する其鐵道も併れも日本を中心として寄せ来るものなれば日本の土地より領土を失ふことを厭むものにして若しも前年不備安主義に墮つたるふとあらば遠からずして國家の安全第一切身重しの運に出来ふの時わらんふとぞ恐るゝの事り

うのと中止して平和協約を結ぶ可しと所々は示威する所
を避けたりしが最後俄に形勢一變して今や開國主張の
の聲、高く過日の敗蹟は無上の國辱なれば假令如何
ほど軍資を費やすとも聊か厭ん所に非ず唯ア國を征服
して伊太利軍の勇武を輝す可しと主張し又同國王及大臣
内閣も共に其目的を遂ぐるまで戦争するふとに断然決
したりと云ふ

チツセラ將軍は曩に味方の大敗せし爲め兵數大に減少したるに反し敵はいよ／＼援兵加はり事態甚だ危険なるを以てサルサ少佐に命じ伊國の體面を辱しめざる平和條約を結ばしめんとしア國のメチレツ王も亦更に戰ふの不利なるを悟りて頻りに平和の落着を望み既に此上援兵を増す可からずと布告せるのみか出來る限り譲歩して伊國の面目を傷けざる條約を結ぶ可しと云ひ加ふるに獨、塊、英の三國も伊太利王に戰を止むるの利益

○英國ビザエ子ズ井ーラ　英國と南米ビザエの衝突を譲り一時事態危かりしが今や互に譲る所ありて双方より委員を派遣し其争を決せしむるに略ば熟識ひし模様なるに然るに英國は此頃英國の近海へ軍艦五艘を送りたるふそほしさ限りなれと開國人は頃りに甘利命を榮び居れり而して一昨年十二月に彼の國の爲めに捕獲されたる英國官吏バーンズ及びベーカー二氏の捕獲に對し英國九十日の期限を以て黙認を促せしにござりて英國は即ちその期間の期限を以て黙認を有する故に英國は英國の領事官の交渉を終了し英國人船員などが乗つたれば英國領事は當ふの英國領事は世界事件に關係不なしと主張し兵力に訴へても其申分を實証せしと意氣込み縮して猶豫の期限以說に窮るしに尙ほ答なければ軍艦派遣或は之が爲めに非ずるかと云ふ説専らなり(米國ウォールド新聞)

○西班牙の米國に對する戰備　米國々會が
ユーバ島の反対に獨立交戰國の權利を許す可しと議
するや西班牙人は是れぞ我國を侮辱せし所行なりと
微昂齒しかりし由は既に之を記せしが今紐育ヘラル

新聞の報を見るに去月五日西班牙政府は内閣會議をほし攝政皇后も臨場したる際、總理大臣カノヴァーは萬一米國と戰端を開くとわらんも圖り難ければに之に對する用意を盡へたりと雖も大統領クライヴンド氏は恐く我國に對し好意を表し開戦の不景を見に華らざるやう策を燃らすならんと備ずと述べたるし又西班牙国内には所々に軍資の積揚と募集するもありて米國と戰はんとの意氣込頗る盛なりと蓋國大統領の燃え歐洲の外交社會に於て風説するに據れば英國大統領クライヴランド氏はキニー・バの従に自信を持つか成は許し難しとならば追めて征服なる後も國事と莫大に危険せられたらしと確に西班牙は忠告するが如くなれども日下の状態とて察すれば氏の森和手段は終に之を行ふを得ず終に會の決闘に從ひ獨立と許す可しと西國へ嚴談するむを勧めるに至らんと云ふ

○西國の現状 千八百八十五年より本領の際にも主權を失ひアレキサンダー三世は繼位より慶部

聊水合婚說

五
十九

第十七回
持參金が連約にて、當直は間へから外れて來りしとありて聞き捨てならぬ一大事、御當人が當直との當直は素よりなれども、我思はくはまで鴉の嘴を喰ひ越へり、されば鹿野が例の談談は吾を驚かすならんと思ひければ、怨と落付きて打笑ひ。
「馬鹿な、其手に乗るものか、五千圓の一人占は強いせ。
「一人占馬鹿か、本當に呆れて仕舞つた、眞遂に金を持て來なければ出て行けても首はれない、飛んでも無い脊骨をしてのけたせ、僕も眞遂に其様な事はあるまいと思つて、怨を先方で安心する爲めに眞遂を入れさして仕舞つた。
といふ、此男小僧なれども、随分好方に見けて居れば、時として友達迄も眞頼に一擲嵌めぬとも限らぬは、決して油斷はして居らねど、今日のは眞遂に倒りとは思はず、僕つた處でさうで轍から剥げるとは、百も承知の事なれば、全く持參金を連約して、妖怪と鹿野に脊骨して仕舞ひたるか、若し大名ならば中々女たちの謀智也ならず、先方にも荒唐無理ついて居るを見えたま。然し全額持參金などいふ事は有るまい。
「イヤ夫、おのづれ町が附夜便といふには、何時おもつておまかせしやうと、五十四日(おとこ)の持參金と

元から鳥の^とは、彼は貴様の^とを、是が九十九^とも、家費分散^として、送^とうやして來りし時に剣^とがこれされ^と其元^とに當り放題^とも、吾は一事^とも、當に合つた^と。宜しいにされてなんまり馬鹿^とて走らよ^と。」
「早う行^とけ。」
「早う行^とけ。」
「明けなき^とて呆れ返^と。

て曾て其の車及びその外に一步でも足を出さし候な
し刺客の劍を惧れなければなり然れども此劍は深くして
好き平際に出来たるものにして下着と制服との間に
着込まれたれば帝の近習及び皇后の外、誰一人として
之を見たる者はなし運莫れ露帝の之を若すしては内閣
會議にさへ出席するを好まずりしみは全歐洲の各朝
廷に知れ渡りたる秘密なりし、ビスマルク、スタンブ
ーロツフ（アルゲーリアの故宰相）及びクリスピーも曾
て之と同様の鎧を着たる所もあり然にクリスピーは刺
客の彈丸者しくは物を防がんが爲め今尚ほ二重張の輕
き鎧を着せり畢竟當時の人々が斯る護身の具を用ふる
に至りしは刺客の難に遇ひたるか又は遇はんとするの
模倣を覺りし後なり露國今帝ニコラス一世は今日までの
経験に據て見れば幸にして未だ彼の怖る可き虚無黨員
に命を取られんとするの難に遇ひ給はず然れどもオデ
ッサに於て彼の虚無黨一味の學生輩が捕縛されし以來
帝は驚に白銅と鋼鎧とを以て走りし鎧を着せらる想ふ
にニコラス二世の如き身體偉大強壯ならざる御方には
斯る看物を召さるゝみと無御迷惑ならん帝が恐懼と用
心の珍談は今尚ほ頗る聲に耳ある帝室の奥の院を漏れ
て露京人民の間に傳を置かれたりニコラス一世は高遠
にも未だ枕の下の水光にヤラセられしのみとはなし
と雖も帝は腹心の體行者なしに食慾又は腹痛に入られ
たるふと決してなし並し露帝が食事に就く前に食堂中
との各入口には華麗なるコッタクの装具あるのみなら
ず其の口に入る食器は一々考究なるを兼ねず一人
の大破損を防ぐは其等職務者の役目にして食器を入れ
百入十五年より一千八百九十六年の今日に至るまで露
宮殿の周圍十哩以内に鳥二羽落るるへ露帝の眼を憚れ
たるみとなしと載る英字新聞に見えたり